

特集③

防災・減災 備えあれば憂いなし

「災害は忘れたころにやってくる」。しかし最近も「災害はいつでもどこでもやってくる」と言っても過言ではありません。防災意識を高め、災害に対する備えをチェックしましょう。

地震や津波災害に備える

日本は、世界有数の地震国です。東日本大震災発生以後、震度4以上の地震が多数発生しており、いつどこで発生しても不思議ではありません。さらに、地震発生を予測することは大変難しいため、日頃からの地震に対する備えが大切です。

家屋の倒壊や家具の転倒などに備え、【表3】を参考に家の中の安全対策を行いましょう。

【表3】家の中の安全対策ポイント

- ・家具のない安全な場所を確保する。
- ・出入り口や通路に物を置かない。
- ・家具の転倒・落下の防止対策をとる。
- ・寝室や子ども、高齢者、病人のいる部屋には倒れそうな家具を置かない。
- ・ガラスには飛散防止フィルムを貼る。
- ・非常持出品は、取り出しやすい場所に置く。

大雨や台風などの風水害に備える

毎年、日本各地に大きな被害をもたらす台風や大雨は、来襲時期や規模を気象情報などにより、ある程度予測が可能です。

台風時に多く発生する人的被害のひとつに、風や雨が強くなつてからの外作業があげられます。家屋周辺の点検【表1】を日常的に行い、被害を防ぎましょう。

【表1】家屋周辺の点検

項目	チェックポイント
屋根	トタンが剥がれたりしていないか
	アンテナはしっかり固定されているか
ベランダ	強風で飛ばされそうな物を置いていないか
窓ガラス	ひび割れ、破損、ぐらつきはないか
庭など家屋周辺	危険物や避難の妨げになるものがないか
車庫	シャッターが外れそうになっていないか

また、自分で対応できないものは、専門業者などに相談しましょう。日頃から天気予報などの気象情報【表2】に注意し、災害の恐れがあるときは、早めに避難の準備をしましょう。

【表2】雨量と影響

1時間降水量(ミリ)	予報用語	影響
10以上20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。屋内でも雨音で声がよく聞き取れない。長く降り続けると危険。
20以上30未満	強い雨	どしゃ降り。小さな川や側溝があふれたり、小規模ながけ崩れがはじまる。
30以上50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになり、がけ崩れが起こりやすい。
50以上80未満	非常に激しい雨	滝のように降る。マンホールから水が噴出したたり、地下に雨水が流れ込む。
80以上	猛烈な雨	息苦しい圧迫感と恐怖を感じる降り方。大規模な災害が発生する恐れが強い。

家族で防災について話し合おう

災害時には家族全員が協力し合うことが必要です。日頃から家族が防災について話し合う機会をもちましょう。家族防災会議は月に一回程度、定期的に開催することが大切です。

非常持出品を備える

災害が発生すると「停電」や「断水」「避難所に避難」など日常とかけ離れた生活が余儀なくされます。

このような場合に備え、日頃から非常時に必要な持出品を準備しておきましょう。また、「非常持出品」は、各家庭によってそれぞれ用意する内容が異なります。たとえば、乳幼児がいる家庭では「ミルクやオムツ」、要介護者がいる家庭では、「補助具や常備薬」など家族構成や事情に合わせた準備が必要です。定期的な点検しましょう。

地震の揺れと想定される被害

震度0	・人は揺れを感じない。
震度1	・屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。
震度2	・屋内にいる人の多くが揺れを感じる。 ・吊り下がった電灯などわずかに揺れる。
震度3	・屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。 ・棚にある食器類が音を立てることがある。 ・電線が少し揺れる。
震度4	・かなりの恐怖感がある。 ・吊り下げた物が大きく揺れ、棚にある食器類が音を立てることがある。 ・電線が大きく揺れ、歩いている人も揺れを感じる。
震度5弱	・棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。 ・窓ガラスが割れることがある。 ・電柱が揺れているのがわかる。
震度5強	・多くの人が行動に支障を感じる。 ・タンスなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある。 ・自動車の運転が困難になる。
震度6弱	・立っていることが困難になる。 ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。 ・耐震性の低い木造住宅は倒壊するものもある。
震度6強	・這わないと動くことができない。 ・固定していない家具のほとんどが移動、転倒する。 ・耐震性の高い住宅でも壁や柱が破損するものがある。
震度7	・自分の意志で行動できない。 ・ほとんどの家具が移動し飛ぶものもある。 ・耐震性の高い住宅でも傾いたり大きく破損することがある。

地震が発生したら、落ち着いて、まず自分の身を守ることから行動しましょう。また、地震によっては、津波を警戒しなければなりません。特に、海岸付近にお住まいの方や、海岸付近にいる場合、強い地震や長

い揺れを感じたら、すぐに安全な場所へ避難することが必要です。テレビやラジオなどの情報に注意し、津波発生の情報があった場合、一刻も早くその場を離れ、高台の安全な場所に避難しましょう。

●非常持出品リスト 避難するとき、最初に持ち出すものです。

【貴重品】

- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 健康保険証
- 免許証
- 権利証

【応急・救急品】

- 応急医療品
- 常備薬 など

【情報・照明】

- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 予備の電池 など

【非常食品】

- 水・ミネラルウォーター
- レトルト食品
- カンパン
- 缶詰 など

【生活用品】

- 衣類
- 軍手
- タオル など

●ロープ

その他ライター、ナイフ、缶切り、ティッシュなど。予備の電池は、多めに用意しておきましょう。

特集③ 日頃から災害への備えをしましょう。そして、被害は最小限に食い止めよう。

市・総務課
危機対策係
☎56-5005
本庁舎2階